

千葉市重度障害者等入院時コミュニケーション支援事業

(平成23年4月1日施行)

1 【事業の目的】

千葉市重度障害者等入院時コミュニケーション支援事業（以下、「入院時コミュニケーション支援事業」という。）は、介護者のいない単身者等で、意思疎通が困難な重度の障害者が、医療機関（精神病院を除く。）に入院する場合に、日常的に対象者を担当し意思疎通に熟達している者（以下、「コミュニケーション支援員」という。）を派遣し、入院先の医師や看護師等との意思伝達の円滑化を図ることを目的とする。

2 【対象者】

市内に居住地を有する障害者又は障害児（やむを得ない事由により、必要と認められる障害児に限る。）で、次の要件を全て満たす者。

- （１）単身、準単身又は介護者に制約がある世帯の者
- （２）障害支援区分の認定が区分６（障害児にあつてはこれに相当する心身の状態）の者で、意思疎通を図ることが困難な者
- （３）居宅介護、重度訪問介護、行動援護及び重度障害者等包括支援のいずれかの障害福祉サービスを現に利用している者
- （４）入院先の医療機関の了承を得られる者

障害児の特例・・・障害児の入院にかかる対応については、基本的には保護者の養育義務の範疇であり、**原則対象としないが**、介護者に制約がある世帯であつて必要性が認められる場合については対象とする。

意思疎通を図ることが困難な者とは、・・・

障害支援区分認定調査項目の下記項目のうち、いずれかが「１」
以外に該当していること

３－３ コミュニケーションについて

３－４ 説明の理解について

3 【サービス内容】

対象者が医療機関に入院した場合に、当該医療機関の許可を得て、ヘルパーを派遣し、医師や看護師等との意思伝達の仲介を行う。

○診療時や病室等で、利用者の主訴等を伝えるなど、コミュニケーションの支援を行う。

※ 意思伝達以外のサービスについては、対象外となる。

※ 精神病院への入院は対象外となる。

【参考】サービス内容に含まれないもの（例）

- (1) 食事介助、トイレ介助、更衣介助、清拭介助等の身体介助
- (2) 掃除、洗濯、買物の代行等の家事援助
- (3) 院内の移動における、支える、車椅子を押すなどの介助
- (4) 診療報酬単価の算定対象となる行為

など。

4 【サービス提供事業者】

指定障害福祉サービス事業者の指定を受けており、現に在宅生活において、対象者に障害福祉サービスを提供している事業所。

※ 当事業を行う上での指定や登録等の手続きは不要です。

5 【コミュニケーション支援員】

在宅生活時に対象者に対し、居宅介護、重度訪問介護、行動援護及び重度障害者包括支援のいずれかのサービス提供を行っており、対象者との意思疎通に熟達している者。

※ 日頃から対象者を支援し、意思疎通に熟達しているヘルパーを想定している。

6 【標準支給量】

1月当たり50時間を上限とし、年間100時間を超えない範囲とする。
ただし、入院計画書及び個別支援計画等を勘案し、各区保健福祉センター高齢障害支援課長が必要と判断した場合はこの限りでない。

○利用者が入院先の医師や看護師等との意思伝達を図ることを目的とし、24時間常時付き添っているような支援は想定していない。

○医師や看護師等に、利用者との意思伝達を図る方法や利用者の訴え（サイン）などを伝え、医師や看護師等が支援できるような体制を整え、標準支給量の範囲内で収まるように努めていただきたい。

7 【支給決定期間】

認定日から現に利用しているサービスの支給決定の終了日までとする。

8 【報酬単価】

30分当たり900円とする。

9 【利用者負担】

1割負担とする。

＜今後について＞

平成30年4月施行の障害福祉サービス等報酬改定によって、重度訪問介護のサービス範囲が拡大され、医療機関へのヘルパー派遣ができるようになり、サービス内で意思疎通の支援も可能になる。このことから、重度訪問介護において当事業と同等のサービスが提供されるため、重度訪問介護の利用が優先される。

しかし、重度訪問介護において15歳未満の障害児を対象としていないため、必要と認められる場合に限って当事業の対象とする。